

教員養成における小学校専門科目「図画工作」に関する研究（3）

—小学校図画工作科教科書をもとに—

小 江 和 樹 [鹿児島大学教育学系 (美術教育)]

小 江 香南子 [鹿児島国際大学福祉社会学部 (児童学科)]

A study on an elementary school special subject 'Art and Handicraft' in teacher training (3) — Based on an elementary school course of art and handicrafttextbook —

OE Kazuki · OE Kanako

キーワード：教員養成、小学校専門科目、図画工作、教科書

1. はじめに

本研究では、小学校図画工作の実践的な指導力を育成するために、教員養成における小学校専門科目としての「図画工作」の在り方について明らかにすることを目的としている。

まず前々稿では、小学校教員を目指す大学生へのアンケート調査を実施し、小学校で受けた図画工作の授業やその内容についての調査を通して、経験の実態を明らかにするとともに、どのような領域、分野に苦手意識を持っているかについて考察を行なった。

次に前稿では、同様のアンケート調査の調査対象学生数を増やすとともに、アンケート結果をさらに深く詳細に分析して、図画工作各領域及び分野の嗜好傾向と学生の専攻分野（所属専修）との関連性について明らかにした。

そして本稿では、小学校図画工作进行を指導していく上で必要な基礎的知識や技能について、小学校図画工作科教科書の内容を中心に考察を進めたい。このような考察は、小学校専門科目「図画工作」の授業内容の構築に対して、最も重要な要素であると考えられる。

2. 研究方法

小学校図画工作科教科書において、それぞれの領域・分野で取り上げられている教材（題材）の傾向について、次のような2つの観点から考察を行い、小学校図画工作进行を指導していく上で、教師に求められる基礎的知識や技能を確認して、小学校専門科目「図画工作」の授業内容を構築していく上でのポイントを明らかにしたい。

①学習主題や学習活動に関すること

②材料や技能に関すること

3. 小学校図画工作科教科書についての考察

図画工作科教科書は、学習指導要領をもとに内容が構成されている。なお、本研究では、全国の採択状況などが

ら、日本文教出版の小学校図画工作科教科書を対象とし、現在、小学校で使用されている平成27年度版「図画工作」について考察をする。

具体的な考察に関しては、研究方法で示した2つの観点について、第1学年及び第2学年（以下、低学年）、第3学年及び第4学年（以下、中学年）、第5学年及び第6学年（以下、高学年）に分けて、それぞれ考察を進めることにする。

(1) 造形遊びをする活動

表1 造形遊び

学年	材料や場所をもとにして活動する	体全体を働かせながら活動する
1年 ・ 2年	●いろいろなはこから ●ひかりのプレゼント ●しんぶんしとなかよし ●だんだんダンボール	●すなやつちとなかよし ●コロコロぺったんシャカシャカ ●どんだんならべて ●つないでつるして
3年 ・ 4年	●ひもひもワールド ●いつもの場しよで ●光とかげから生まれる形 ●すみですみか	●切ってつないで大へんしん ●クミクミックス ●つつんだアート ●つなぐんぐん
5年 ・ 6年	●光のハーモニー ●あんなところでこんなところで ●ひらいてみると ●動きをとらえて形を見つけて	

造形遊びをする活動は、表1のように、材料や場所をもとにするもの（材料や場所の活用）と体全体をはたらかせるもの（行為の展開）に分けられる。

造形遊びは、その特性上、それぞれの教材に2つの観点が相互にかかわりあって構成されているため、総合的に考察を試みることにする。

低学年では、砂や土（土粘土など）を用いて、穴を掘る、積む、つかむなどを、体全体で試しながらつくる活動、水彩絵の具や紙類、テープのしんなどを用いて、写したりこすり出したり、ころがしたりしながら様々な形を発見していく活動、空き箱を重ねたり並べたりする活動、光を通すいろいろな材料やセロハンなどを用いて光がつくる形や影を発見していく活動、新聞紙や段ボールなどの紙類や糸やひもを用いて、やぶく、ならべる、たてる、囲む、つなげる、つるすといった活動などが取り上げられている。

中学年では、ボール紙や段ボール、新聞紙などの紙類に加え、プラスチック、透明シート、糸やひも、落ち葉、さらに光などの身近な材料を用いて、校内の色々な場所とかかわりながら、その場所の感じを変えたり、新しい形を生み出したりして、変化の様子を感じ取り楽しむ活動が中心である。

高学年では、前学年までの身近な材料に加えて、LEDライトや自然光などの光、さらにビニール傘などを用いて、風や水の動きの変化や場所ともとのかわり方で変化する光を感じるなど、身近な場所や空間の雰囲気を変身させる活動である。

(2) 絵に表す活動

表2 絵に表す

学年	材料や用具に触れながら思い付いたことを表す	感じたこと、想像したこと、見たことから表す	版に表す
1年 ・ 2年	<ul style="list-style-type: none"> ●どんだんかくのはたのしいな ●いろいろなかたちのかみから ●やぶいたかたちからうまれたよ ●とろとろえのぐでかく ●ざいりょうからひらめき ●はさみのあーと 	<ul style="list-style-type: none"> ●せんせいあのね ●のってみたいないきたいな ●みてみておはなし ●たのしかったよドキドキしたよ ●ひみつのたまご ●見て見ておはなし 	<ul style="list-style-type: none"> ●うつしたかたちから ●たのしくうつして
3年 ・ 4年	<ul style="list-style-type: none"> ●色・形 いいかんじ！ ●立ち上がった絵の世界 ●これにえがいたら ●絵の具でゆめもよう ●光のさしこむ絵 	<ul style="list-style-type: none"> ●うれしかったあの気持ち ●まほうのとびらをあけると ●大すきなものがたり ●わすれられないあの時 ●まぼろしの花 ●大すきな物語 	<ul style="list-style-type: none"> ●いろいろうつして ●ほってすって見つけて
5年 ・ 6年	<ul style="list-style-type: none"> ●消してかく ●墨で表す ●感じて考えて 	<ul style="list-style-type: none"> ●じっと見つめてみると ●まだ見ぬ世界 ●物語から広がる ●心のもよう ●物語から広がる世界 ●想像のつばさを広げて ●物語から広がる世界 	<ul style="list-style-type: none"> ●刷り重ねて表そう ●版から広がる世界

絵に表す活動は、表2のように、材料や用具に着目したものと感じたこと、想像したこと、見たことに着目したものの、そして版表現に着目したものに分けられる。

①学習主題や学習活動に関すること

低学年は、「感じたこと、想像したこと」をもとに、感じたことを表す絵、想像したことを表す絵、いろいろな材料で表す絵などがあり、具体的には、材料との触れ合いを通して、その形や色から発想する活動や自分の思いを表現する活動、写す行為を楽しむ活動などが取り上げられている。

中学年は、「感じたこと、想像したこと、見たこと」をもとに、線で表す絵、水彩絵の具を使って表す絵、身の回りの出来事や楽しかった思い出、想像して描く、物語の絵などがあり、具体的には、水彩絵の具の特徴を生かした表現や自分の思いや気持ちを表す活動、版づくりを楽しむ活動などが取り上げられている。

高学年は、「感じたこと、想像したこと、見たこと、伝え合いたいこと」をもとに、材料に親しみ材料などをもとに発想して描く絵、行為や操作を習得し活用しながら描く絵、想像や構想したイメージをもとに表現した絵などがあり、具体的には、墨による表現や描く行為の広がりを感じさせる表現、また物語を主題に発想を広げていく表現、

版による表現の広がりを感じ取る活動などが取り上げられている。

②材料や技能に関すること

全学年を通して、使用している描画用紙は、画用紙、色画用紙、段ボールなどがあり、描画材では、クレヨン、パス、水彩絵の具、ペンなどである。そこで学年ごとの特徴について以下に述べることにする。

低学年では、いろいろな材料で表す絵で見られるように、貼り付けて表現するための材料として、新聞紙や包装紙、毛糸、ビーズ、わた、ポリ袋、ボタンなどと接着剤、そして紙版画に用いる材料、さらに絵の具に混ぜるための液体粘土も用いられている。また、用具類としては、水彩絵の具を使うときに用いる筆やパレット、紙を切って貼り付けるときに使用するはさみやのり、版画表現で用いるローラーやバレンなどがある。

中学年では、低学年で用いる材料や用具類に加えて、かんしょう材や布、さらに光を通す材料として透明シートやセロハンなどが用いられ、木版画表現に必要な板材やインク、用具として彫刻刀、ローラーやバレンなどがある。

高学年では、前学年までの材料や用具に、和紙や木炭紙、トレーシングペーパーなどが、また、描画材としては、墨、コンテ、パステルなどが新たに加えられ、表現の幅の拡大が見られる。そして、版画表現で用いる材料や用具は、前学年までとほぼ同様のものを使用している。

(3) 立体に表す活動

表3 立体に表す

学年	材料や用具に触れながら思い付いたことを表す	感じたこと、想像したこと、見たことから表す
1年 ・ 2年	●ひもひもねんど ●はこでつくったよ ●にぎにぎねんど ●くしゃくしゃぎゅつ	●ごちそうパーティーをはじめよう！ ●いっしょにおさんぽ ●おもいでをかたち ●ともだちハウス
3年 ・ 4年	●切ってかき出しくっつけて ●カラフルフレンド ●立ち上がれ！ねん土 ●森のげいじゅつ家	●ねん土マイタウン ●クリスタルファンタジー ●トロトロ、カチカチ・ワールド ●ゆめのまちへようこそ
5年 ・ 6年	●心の形 ●糸のこすいすい ●立ち上がれ！マイ・ライン ●いっしゅんの形から ●光の形	●ミラクル！ミラーステージ ●水の流れるように ●12年後のわたし

立体に表す活動は、表3のように、材料や用具に着目したものと感じたこと、想像したこと、見たことに着目したものに分けられる。

①学習主題や学習活動に関すること

低学年は、「感じたこと、想像したこと」をもとに、表したいことを見付けて表す、好きな色を選んだり、色々な形をつくって楽しんだりしながら表す活動が取り上げられている。具体的には、材料や用具に触れながら行為を通して発想して表現する活動、身近な事柄を取り入れた題材などが見られる。

中学年は、「感じたこと、想像したこと、見たこと」をもとに、表したいことを見付けて表す、表したいことを考えながら、色や形、材料などを生かし計画を立てるなどして表す、表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かして使うとともに、表し方を考えて表す活動が取り上げられている。具体的には、材料の特徴を生かした表現や夢の世界などを想像して表す題材などが見られる。

高学年は、「感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいこと」をもとに、表したいことを見付けて表す、形や色、材料の特徴や構成の美しさなどの感じを考えながら、表し方を構想して表す、表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かして使うとともに、表現に適した方法などを組み合わせて表す活動が取り上げられている。具体的には、見たことに加えて、心象的なものを取り上げた題材や技能的にも手ごたえのある表現が含まれた題材も見られる。

②材料や技能に関すること

低学年では、粘土（油粘土、紙粘土、土粘土）を主材料としたものが多く、その他として、空き箱、紙類、布、リボンなどに加え、身近な材料として、小石や小枝、貝殻などの自然物、紙コップやプラスチックカップなどの人工物が用いられている。また、用具類としては、はさみやのりなどの扱いやすい用具を使用している。

中学年は、粘土（油粘土、土粘土、液体粘土）を主材料とし、その他としては、段ボール、色がみ、透明な袋、リボンなどに加え、身近な材料として小枝、板、木の実、貝殻などが用いられ、光を通す透明なもの（ペットボトルやビニールカップなど）も用いられている。また、用具類としては、はさみやのりなどの扱いやすい用具に加え、着色を行うときには水彩絵の具を使用し、粘土の加工には切り糸やかきべらなどを使用している。

高学年では、粘土（紙粘土、土粘土、木彫粘土、液体粘土）を主材料としながら、前学年までに用いた材料に加え、針金、ミラーシートやスチレンボード、モール、ペットボトル、LEDライトなどを用いている。土粘土とガラスを用いた焼成作品の製作も取り上げられている。また、用具類としては、はさみやのりなどの扱いやすい用具に加え、着色を行うときの水彩絵の具、粘土を削るための彫刻刀、針金の加工に用いるペンチ、板材の加工には電動糸のこなどを使用している。

(4) 工作に表す活動

表4 工作に表す

学年	飾るもの、使えるものをつくる	遊ぶもの、仕組みから思い付いたものをつくる	伝え合うものをつくる
1年 ・ 2年	<ul style="list-style-type: none"> ●チョコチョコかざり ●はこかざるん ●わっかでへんしん 	<ul style="list-style-type: none"> ●おってたてたら ●クルクルまわして ●コロコロゆらりん ●なにがでてくるかな!? ●わくわくすごろく ●ときめきコンサート ●ストローでこんにちは ●まどをひらいて 	

3年	●トントンドンドンくぎうち名人 ●サクサク小刀名人	●ふんわりふわふわ ●ゴムの力で	●幸せを運ぶカード
4年	●ハッピー小もの入れ ●おもしろアイデアボックス ●ギコギコクリエイター	●コロコロガーレ ●ゴー！ゴー！ドリームカー	
5年	●使って楽しい焼き物 ●アミアミアミーゴ	●くねくね糸のこパズル ●コマコマアニメーション	●伝え合いたい思いや気持ち ●ドリームプラン
6年	●1枚の板から	●くるくる克蘭ク	

工作に表す活動は、表4のように、飾るもの、使えるものと遊ぶもの、仕組みから思い付いたもの、そして伝え合うものに分けられる。

①学習主題や学習活動に関すること

低学年は、「感じたこと、想像したこと」をもとに、表したいことを見付け、好きな色を選んだりいろいろな形をつくって楽しんだり、つくり方を考えたりするなどしながら、思いのままに表す活動が取り上げられている。具体的には、飾るものや楽しく遊ぶものをつくる題材が多く見られる。

中学年は、「感じたこと、想像したこと、見たこと」をもとに、表したいことや用途などを考えながら、形や色、材料などを生かし、計画を立てるなどして表す活動、表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かして使うとともに、表し方を考えて表す活動が取り上げられている。具体的には、よさや美しさを求め、用途などを考えながらつくっていく題材や仕組みから思い付き、発想を広げながらつくっていく題材、さらに動きを取り入れた題材などが見られる。

高学年は、「感じたこと、想像したこと、見たこと、伝え合いたいこと」をもとに、伝え合いたいことから、表したいことを見付けて表す活動、形や色、材料の特徴や構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、表し方を構想して表す活動が取り上げられている。具体的には、つくるものの視野を広げて、実際に使ったり、遊んだりして楽しめるものをつくる題材や自分の思いを伝えるための工夫を取り入れた題材、さらにアニメーションづくりなど、表現の幅の広がりも見られる。

②材料や技能に関すること

低学年では、工作用紙や色画用紙、段ボール、色かみなどの紙類、ペットボトルやストロー、テープ類などの人工物をはじめ、身近で多種多様な材料が用いられている。また、用具類としては、はさみやのりなどの扱いやすい用具に加えて、セロハンテープ、ホッチキス、カッターナイフなども使用し、さらに着色の際の水彩絵の具の使用も見られる。

中学年では、前学年までの身近な材料に、木材(板材)や小枝、竹ひご、くぎ、空きビンやカップなどが加わり、使用する材料の広がりが見られる。また、用具類としては、前学年までの用具に、金づちやのこぎりといった木材加工に必要な用具が加わっている。

高学年では、前学年までの材料に、クレアアニメ用の紙粘土や素焼き用粘土、針金などが加えられ、表現の幅の拡大が見られる。また、用具類としては、前学年までの用具に、デジタルカメラの活用や電動糸のこの使用も見られる。

(5) 鑑賞する活動

表5 鑑賞

学年	身の回りのものの楽しさやおもしろさ、よさを感じ取る	自分の作品や身近な美術作品などのよさやおもしろさ、美しさを感じ取る
1年 ・ 2年	●でこぼこはっけん！ ●すてきなものいっぱい ●ともだち見つけた！	
3年 ・ 4年	●ここがお気に入り	●からだでかんしょう
5年 ・ 6年		●カードを使って ●何をかいているのかな？ ●筆あと研究所 ●味わってみよう和の形

鑑賞する活動は、表5のように、身の回りのものの楽しさやおもしろさ、よさを感じ取ることと自分の作品や身近な美術作品などのよさやおもしろさ、美しさを感じ取ることに分けられる。

①学習主題や学習活動に関すること

低学年は、身の回りにある作品などから面白さや楽しさを感じ取ることを目指した活動が取り上げられている。具体的には、身の回りにあるものに対して、写したり、集めたりといった活動を通して、その形や色などから新たな発見をして、それを紹介していく題材やあるものに見立てていく題材が見られる。

中学年は、身近にある作品などから、よさや面白さを感じ取るようにすることを目指した活動が取り上げられている。具体的には、自分自身のお気に入りの場所のよさを生かして飾り、紹介し合ったり、作品を体全体でまねて、感じたことや気付いたことを友達と話し合ったりする題材などが見られる。

高学年は、親しみのある作品などから、よさや美しさを感じ取る鑑賞の能力を高め、自他の作品、伝統や文化などを大切にしようとする態度の育成を目指した活動が取り上げられている。具体的には、カードなどを使って、友達といろいろな作品を見比べていく活動や作品から受ける感じを友達と話し合う活動を通して、作品の見方や感じ方を深めていくような題材、鑑賞作品の表現方法から作品の印象を探っていく題材や日本の伝統美術に触れる題材などが見られる。

②材料や技能に関すること

低学年、中学年、高学年に共通して見られるものとして、表現活動を伴う場合に用いられる身近な素材や粘土類、水彩絵の具がある。また、鑑賞活動そのものには、アートカードなどのカード類が用いられている。そして、鑑賞の具体的な方法として、体全体を使って体感する活動や友達との話し合い活動が取り入れられている。

4. おわりに

小学校図画工作科教科書の内容について、前述の2つの観点から考察を進め、領域や分野の教材の特徴について

明らかにすることができた。要点について簡潔にまとめると、次のようになる。

学習主題や学習活動に関しては、造形遊びでは、材料や場所をもとに展開していくものと体全体をはたらかせて展開していくものに大別される。また、絵に表す、立体に表す、工作に表すでは、感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいことを、発達に応じて深めながら展開していくものである。このように表現領域においては、「見て表現する活動」と「想像して表現する活動」から構成されている。そして、鑑賞では、私たちの回りにある様々な作品などから、「面白さ、楽しさ、よさ、美しさ」を感じ取る鑑賞の能力を高めるために、「表現活動を伴う活動」や「体全体を使って体感する活動」、「友達との話し合い活動」によって構成されている。このような活動を通して、自分や他人の作品、伝統や文化などを大切にしようとする態度を育てていくことを目標としたものである。

材料や技能に関しては、絵に表す活動などの平面表現では、紙類を中心としたものに、描画材として、クレヨン、コンテ・パス類、水彩絵の具、さらに墨などを用いた描く活動が中心となる。また、造形遊び、立体に表す、工作に表す活動などの立体表現では、粘土を主材料としながら、紙や木などに加えて、身近な材料（自然物や人工物）を用いたつくる活動が中心となる。そして、鑑賞する活動では、表現活動を伴う場合には前述した材料等を用いることもあるが、作品を通して、自分と作品との交流、自分と友達との交流が活動の中心となる。

以上のような本稿における考察と前稿までの考察結果をもとに、次稿では、小学校専門科目「図画工作」の授業内容を具体的に提案し、学生への実践を通して、その成果と課題について考察したいと考えている。

参考文献

大学美術指導法研究会，藤江充，岩崎由紀夫，水島尚善，2009年，「図画工作科」指導法，日本文教出版株式会社